

平秀信特別レポート

2009年8月4日、平秀信が8カ月間の旅を終え無事帰国しました。

すべては一本のメールから旅は始まりました。

-----Original Message-----

平さま、旅に出ましょう。全ては旅が教えてくれます。
1年間の間に平さまの中で、全て気持ちの整理がつくと思います。
どちらに転ぶかわかりませんが、
どちらにせよ必ず良い方向に向かうと確信しています。

「旅に出れば必ず良い方向に向かいます」

まずは全てを捨てて日本を出てください。
これはもし可能であれば良いのですが、
日本の住民票も外しておいて下さい。可能であればです。

平さま、今まで50年間という歳月を
ここまで強く生きてこられた事お疲れ様です。
今まで色々な事を経験し、考え、
そして、感じながら今日ここに到着されたと思います。

決して楽な道のりではなかったと思います。
人には言えない辛い記憶も必ずあると思います。

平さまの50年という人生から見たら、
私が知っている平さまはほんの数年間でしかありません。

でも、そのたった数年という短い間だけでも、
私はいつも平さまの強く生きる姿勢を見てきました。

私自身、平さまに出会う事がなかったら今の私はありません。
平さまに出会う事で、強く生きる意味を知り、

そしてそれまで私に欠けていた多くの大切な部分を
平さまが埋めてくれました。

言葉では上手く表現できませんが、
ただ平さまと出会う事ができた自分の運命に感謝します。

今回の旅は、平さまの50年の人生の途中休憩のようなものだと思ってください。
人は休みなくして走り続けることはできません。
心の底から精神、肉体、感情を休めてあげてください。

私も現在、エネルギーを充電中です。
そして、自分の原点、本来の自分の中心点に戻るために、
自分を見つめている作業をしています。
平さまも限界までエネルギーを充電しておいてください。

そしてお互いのエネルギーが満タンになったとき、
完全にセンタリングができた時、次のステージに上がりましょう。
そして、今まで見えなかったレベルの限界を超えた挑戦をしましょう。

まだ始まったばかりです。

Mr . X

-----End of Message-----

2008年12月21日

「何が起きるかわからない、何を手にできるか、何も手にできないか、それも分からない。自分を探す旅ではない。世界で最高の男になるためでもない。でも、きっと何かをつかみ帰ってくる。ちょっとだけ待っていてください。ちょっとの間だけ Good by e です」

平は皆にこう言い残し、
東京発 / 福岡行の深夜バスに乗って、孤独の旅に出発しました。



2009年1月1日

平から社員に向けてメールが届きました。

-----Original Message-----

あけましておめでとう。

孤独の旅、頑張っています。

博多 - 釜山 - ソウル - 仁川 - 大連

丹東 - チチハル - 北京 - 包頭

と回っています。全て1日単位で移動、移動です。

列車は10時間から23時間ほど乗ります。

と、いろいろ話しても仕方ないですが、

来年は、一人ずつ、私の苦勞をしてもらうために、

10日間中国の一人旅を経験してもらおうと思います(笑)

孤独は考える時間が多く、思考の壁を超える挑戦ができます。
まだまだですが。

留守中は、メールを余りよこさないでください。
見るだけで、現実に引き戻されます。

自分勝手な旅で申し訳ありませんが、
次のステージに行くために限界を超えたいと思います。

それでは今年もよろしくお祈りします。

今年のテーマは、
Don't let nothing get you plumb down.
「なにがあってもへこたれるな」

です。紙に書いて張っておいてください。英語も書いて。

では、旅を続けます。いま、モンゴルに向かっていきます。



Mr. Xチェンマイセミナー(2009年3月1日~2009年3月11日)

今回のチェンマイXセミナーのテーマは「進化」です。私たちはなぜ進化をしなければならないのか？進化とは何か？人はどうすれば進化することができるのか？今日から何を行うのか？進化するための究極の方法を11日間に渡り学びました。

究極の方法とは、一言でいうと「習慣」です。

セミナーは、7つほどのパートに分かれていて、気の遠くなる時間なので一度に話をすることができません。なので、方法を考え、シェアしていきます。教える内容をすべて行う必要はありません。しかし、良く読んで深く考えてください。

進化とは基本に還るという意味が強い。今までの私たちの考え方、行動を見直す良い機会だと思います。皆が読むとき、これだけは、肝に銘じて欲しいのですが、(たぶん皆理解しているが念には念を入れて)

「すでに知っている」この考えを捨ててください。完全に頭の中から消し去り、オープンマインドで読み進めてください。

これから話す方法は、80%はすでに知っている内容なんです。しかし、多くの人はずけていない。私たちはかなりの部分で出来ていたから、今まで成功してきたといえるのです。しかし、もっと進化するためには、知っている、という気持ちを全部捨てないと何も入ってきません。まず、ここを理解してください。

(つづく)

2009年3月30日

平から社員に向けてメールが届きました。



件名：頑張ってくれてありがとう

元気にやっています。
皆によろしく伝えてください。
写真送ります。

2009年5月7日

平から社員に向けてメールが届きました。
以下はブログの内容です。



マインドマップの Mr トニーブザンとクアラルンプールで会った。会ったと言っても偶然に出会っただけだが、空港で見かけた。あれ？と思い声をかけた。

今までの俺なら、外人に声などかけられない。しかし、孤独の旅のおかげで、外人に声をかけるのは 平気になった。

「もしかして、トニーブザンさんですか？」

「そうだよ、あなたは？」

「私は、平といいます。神田先生の生徒です」

「おおそうか！彼は日本一のマーケッターだ。雑誌に載ったぞ！」

「知っています。あなたのマインドマップの講座にも出ました」

「そうか！東京で？」

「そうです・・・」

と会話は進んだ。およそ15分。

いっておくが、俺は、英語はほぼ話せない。なので、身振り手振り、単語で、上記の内容を伝えた。とても楽しい15分だった。

2009年8月1日

平秀信ブログ「孤独の旅」より

Mr. Xと話し合いました。

もうすぐ日本に帰ります。

旅が終わる前にMr. Xと色々話し合いました。

ここをクリックしてMr. Xとの会話を聞く

<http://hirahidenobuteleseminar.s3.amazonaws.com/kodokunotabi/mrhirajourneyends.mp3>

2009年8月2日

平秀信ブログ「孤独の旅」より

才能とは続けること。

後2日で日本に帰ります。

才能は誰もが持っているわけではなく、続けることが才能に変わります。毎日書く、毎日話す、毎日顔を見せる。これらが、ある日、才能に変わる。そして、気が付いていたら、成功しているのです。誰もが毎日、仕事がなくなったらどうしよう。もし、事故が起きたらどうしよう。もし、手形が落ちなかったら・・・不安の毎日で働いています。それでも、必死で考え、必死で手足を動かし働く。そういう姿勢が必ず成功を引き寄せます。

仮に、もし仮に成功できなかったとしても、それはそれでいいじゃないですか。本当に自分に嘘をつかないで、余力を残さないで働き、家に帰ったら倒れてしまう。そういう働き方をしていたら、心は満足で満たされます。私自身がそうでした。余力を残して家に帰るのは恥ずかしいと思っていました。だから成功できたのだと思います。

続きは[こちら](#)

2008年8月3日

平秀信ブログ「孤独の旅」より

最後の教え Mr . Xがアルバイトで常に一番チップを手に入れた方法

このブログで私が最後に話す内容です。

最後だと思うと、さみしく、書く手も止まりがちですが、今日はさらりと書きます。

Mr . Xは14歳ころから働いていたといいます。アメリカはチップの国です。アルバイト代はほとんどありません。お客にチップをもらえなければ、一生懸命働いても何にもならないのです。たくさんチップをもらう。これが、アルバイトが考える唯一のことです。

では、どうすればチップをもらえるか？

言うまでもなくお客に喜んでもらえばもらえます。しかも、期待以上のサービスをしてくれればたくさんチップをもらえます。

Mr xは色々なアルバイトをやりました。特に飲食店で働いたそうです。働く先では、常にチップをもらう額がトップだったといいます。では、Mr . Xはどうやってチップをたくさんもらったのでしょうか？

この話を先日マレーシアで聞きました。私も考えてみましたが、

声をかける。

笑顔で接する。

希望を先読みして行う・・・などしか思いつきません。

しかし、Mr . Xのやったことは、驚くべきことでした。

商売の原点。

まさに、これこそが私たちが行わなければならないこと。常に頭に入れておかねばならないマインドセットだったのです。では、Mr . Xは何をやったのか？

初めてのお客が来て注文します。お客は楽しそうに食事します。そして、支払い。「ハイ、チェック頼むよ」「お客さん、楽しんでもらえました？支払いは結構です。私が支払いました。どうぞ、そのままお帰りください」「え、君が払ってくれたの?!」「そうです。私のおごりです。ぜひまた来てください」なんと！Mr . Xは初めてのお客に食事代をみなおごったそうです。

すると、どのお客も驚き、チップをたくさんくれ、また、次に来たときも必ずMr . Xを指名したそうです。次から次にお客はやってきて、みなMr . Xを指名したのです。

Mr . Xは何をしたのか？

まず、与えたのです。私たちはまず、お客からお金を奪おうとしていないでしょうか？どうすれば、財布を開くか？どうすれば、買ってくれるか？売ろう、売ろうとしていないでしょうか？まず、与える。そして気に入ってもらったらその対価をいただく。本当の意味でこれができたら、どんなビジネスでもうまくいくはずです。

しかし、行うのはとても勇気のいることだと思います。また、自分のビジネスには使えないよ。そう考えるかもしれません。

応用できるかどうか？私はすべてのビジネスに応用できると思います。私も家を売ったり、情報ビジネスをしたり、通販をやっています。自分でも考えてみたいと思います。まず与える。どうすれば、お客に満足を、夢を、何かを初めに与えることができるのか？どうかこのことを忘れないでください。私も忘れないように手帳に書きました。

私はこの孤独の旅を通し、たくさんのことを学びました。そして、学んだことをこれから実践していきます。このブログは今日で終わりますが、8月5日から新たなタイトルでブログを始めます。続けることが大切だと言いました。私もブログを続けることで、あなたが見ていると思うことで何かが変わると信じています。

ぜひ、引き続き読んでいただければと思います。

それでは日本でお会いしましょう。チャオ！

追伸

私をずっと見守り導いてくれたMr . Xに心から感謝します。そして、同様に旅を側面から支援してくれた廣田さんにお礼を言います。ありがとう！



2008年8月4日

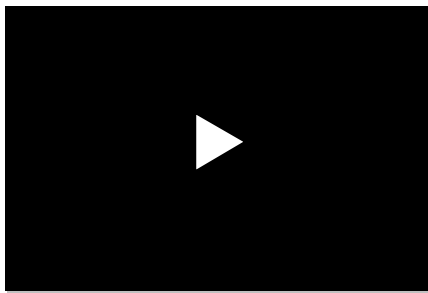
孤独の旅を終え帰国。

そして・・・

2008年10月23日(金)、24日(土)

【平秀信を囲う会】を開催します

平秀信からのメッセージ



【平秀信を囲う会】について・・・

こんにちは。平です。

少し前の話になりますが、ドバイに遊びに行ったときの話をしましょう。

ドバイは、信じられないほど開発が進んでいて、超高層ビルが雨後の竹の子のようにあちこちに立っています。世界中から資本が集まって、一大エメラルド(黄金郷)築いているという印象でした。

私が泊まったのは一泊数十万円の高級ホテルだったのですが、ロシアやヨーロッパから来ている大富豪ばかりで、日本人のお客はひとりもいませんでした。日本人は世界で2番目にたくさんキャッシュを持っていますし、半端でない資産をもっている企業のオーナーもたくさんいるはずなのに、「どこから来たの？日本？日本ってどこ？」と聞かれることが少なくありませんでした。

日本という国は、海外ではあまり存在感がないようです。私は同じアジアの人として、寂しい気持ちになりました。

ドバイに滞在中のある日、宝石店に入りました。

「きれいだなあ、大きいなあ、どれにしよう」「うわあ、数えきれないくらいゼロがたくさんついているなあ」とあれこれ迷っている間に、隣にいたロシアの大金持ちに「これもあれもそれも、全部見せてくれ」と目の前で持っていかれてしまいました。そして、そのロシア人は、机の上に山と積まれた宝石の固まりを両腕でガーッと胸元に引き寄せ、「全部くれ」と店員に言ったのです。こちらがひと粒ひと粒吟味している間に、彼は値札を見ずに丸ごと大人買いしたのです。

「オレはまだまだダメだ、金の使いっぷりがあいつらと全然違う」

年俸5億円と豪語しているわりには、自分はお金の使い方がみみっちいのではないかと人間として器が小さいのではないかと憂鬱になりました。

レストランに入ったときも、英語のできない私は料理をスマートに注文できませんでした。ホテルの最上階のバーでお酒を飲んだときも、かっこよく振舞えませんでした。

隣にいた白人のほうが、飲み方や所作が私よりはるかに板についていました。みじめな思いがむくむくと湧き上がり、珍しく落ち込みました。

翌日は、ドバイの空港で Mr.X と落ち合うことになっていました。

翌日、Mr.X を乗せた飛行機が到着し、彼がこちらに向かって歩いてきました。私が「久しぶり」と手を差し伸べると、彼は私の手を払いのけ、無愛想な顔で私の前を通り抜けて、ひとりでさっさとタクシーに乗り込んでしまいました。見事に無視されたわけです。しばらく、あっけにとられ呆然としてしまいました。

仕方なくそのまま空港をあとにしてホテルに戻り、ひとりで夕食をとろうと思っていたところに、Mr.X から電話が入りました。「平さん、先ほどは空港で失礼しました。これからディナーをご一緒にいかがですか？お詫びにご馳走させていただきます。」いつものクールでやさしい彼の声でした。

レストランに着いてほどなくすると、Mr.X が入ってきました。ケタ違いの大金持ちなのに、彼は相変わらず T シャツにサンダルです。しかし、内面から光輝くような独特の存在感を放っています。

「平さん、こんにちは。」リュックから肩を外し、彼が席に着きました。「空港で私が平さんを見無視したのは、あなたのエネルギーが下がっていたからです。」Mr.Xは私の顔を見ただけで、私が落ち込んでいるのを見抜いていました。落ち込みの原因も、彼はきちんと分析していました。

「ドバイの大富豪は、知恵や努力でお金を稼いでいるわけではありません。先祖代々、オイルマネーで稼いだ富を受け継いでいるだけです。ロシアの大富豪だって、言ってみれば、石油成金です。私たちが汗水垂らして稼いでいるのとは、わけが違います」

極上のシャンペンに舌つつみを打ち、Mr.Xは穏やかな目を私に向けました。

「ですから、平さんのほうがよっぽどすごいのですよ。今の平さんなら身ぐるみはがされて裸でドバイの街に放り出されても、何か商売を始めて、大金を稼ぎだすことができますよね？」

「そうですね。」

こう答えてから約2年経ちました。

この時は、会話の流れで、何を想像することもなく答えたのですが、今ははっきりと「YES!」と力強く答えることができます。

今回の会が終わるころには、あなたも、この答えを手に入れることができるはずですよ。

どんな試練も乗り越えられる肉体。

どんな難関も乗り越えられる精神力。

すべての人の心を揺り動かす力、感情を支配する力。

肉体、感情、そして精神。

この3つをあなたは手に入れることができます。

お金を儲けるとか、成功するとかいう次元を超えた、これから生きていく上で、必要なすべてを手に入れることができます。大げさではなく手にできるように準備しています。

想像を超えるマーケティング、コピーライティング

私たちは、マーケティングとコピーライティングをすでにマスターしたと思い込んでいました。しかし、私は8ヶ月間世界を回り知りました。私たちは、まだ、その世界の入口にさえ入っていないということ。2010年以降を生き抜くためのマーケティング、コピーライティングも困う会でお伝えします。

働くことは楽しい

私の大好きなおじいさん、ウォーレンバフェットは、毎朝タップダンスを踊るようにして仕事に行くそうです。私も毎日スキップしながら会社に来ています。50歳のおじさんがスキップしながら、ランランランと酒井法子の歌を口ずさみ出勤しているのです。

働くことは楽しいことです。困う会では、想像を超えるマーケティングやコピーライティング、25分で3時間の仕事をこなすZONEに入る方法、自分、社員、お客様を進化させる方法、10年間色あせないビジネスモデル、自分自身の理想のライフスタイルを送る方法など、私が8ヶ月間の旅で学んだことをお伝えしますが、最後には、あなたが、どんな状況においても、自分自身をコントロールし、毎日が楽しくてしょうがない、ビジネスが面白くてしょうがない、そんな気持ちになってもらえるようにしたいと思います。

それでは、東京会場でお会いしましょう。あなたに会えるのを楽しみにしています。

[平秀信を困う会へ参加する](#)

平秀信

追伸：

- 1、VIP会員の方は必ず参加するようにしてください。どんな予定が入っていても、話を聞きに来てください。今まで私についてきてくれたあなたに、今回の話は伝えなければならないと感じています。あなたの席は確実に用意します。今すぐ、出席手続きを済ませてください。
- 2、これからは役に立たないノウハウは消え、商売の邪魔をするコンサルは消えます。内容のない本は売れない。そういう時代になります。はじまりは常に苦しいものですが、私たちは、その世界で生きると決めたのだから、とことん学び、実践し、

やり遂げていかなければなりません。本当のビジネスを始める。そして、自分たちの身の回りの小さな経済を活性化させ、ドキドキした人生を、ワクワクしたビジネスを周りの人間に伝えていこう。

- 3、 第2の人生。そんなものが本当にあるのだろうか？そう思っている人もいるかもしれませんが。家族を養わなければならない。親の面倒を見なければならない。貯金も足りない。会社に残れるかどうか不安がある。毎日が退屈だ。目標も見失った・・・多くの人が、自分の人生に悩んでいる。もがいている。苦しんでいる。戦っている。私にも夢がある。しかし、その夢を現実にするには、犠牲にするものが大きすぎる。だから、なにもできない。「どうしようもないんです！」こんな叫びにも似たメールを以前いただきました。以前の私なら答えることを躊躇しましたが、今ははっきりと、あなたにも第2の人生があると言えます。あなたにも理想のライフスタイルを送って欲しいと願っています。